石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ
https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

Pepper社会貢献プログラム

会場案内に一役

石巻圏マイクロツーリズムパネル展

桜坂高と連携

高大産連携プロジェクトの一つ、「Pepper社会貢献プログラム」に取り組む石巻専修大学と石巻市立桜坂高校が、8月14日から16日までイオンモール石巻で開催された「石巻圏マイクロツーリズムパネル展」に協力した。

パネル展は、石巻圏域の観光地などを紹介し、地域の魅力を再発見するもので、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、会場の案内役にPepperを起用。Pepperが話す内容やディスプレーに表示する情報といったコンテンツを理工学部機械工学科の高橋智准教授、大学院理工学研究科1年次の木村光平さん（宮城県石巻工業高）、桜坂高校の2年生5人が連携して制作した。

パネル展に先立ち、2度の会合を設けて準備を進めた。初回は、高橋准教授の進行でコンテンツ案を考案。話し合いの結果、Pepperに興味を持ってくれる子どもをメインターゲットに設定し、マイクロツーリズムの説明、展示内容の紹介などを簡潔にまとめ、Pepperが読む原稿を作った。その案に沿って、高橋研究室でプログラムを作成した。

木村さんはプログラミングを担当し、「高校生のアイデアを形にするのは難しかったが、やりがいもあった。工学の知識を地域活性化のために応用できて良かった」と話した。

2回目は、Pepperの動きや話すスピード、声の高さ、タブレットに表示する画像などの最終調整を行い、本番に臨んだ。

パネル展には3日間で延べ3200人が来場し、好評を博した。プロジェクトに参加した高校生は「子どもたちに石巻の魅力を伝えたいと思って活動した。再びこのような機会があれば参加したい」と感想を述べた。

高橋准教授は「生徒、学生はそれぞれの得意分野を生かし、積極的に参加してくれた。短期間の取り組みだったが、高大産連携による実践的な学びができた。地域の魅力を再発見する機会にもなったと思う」と総括した。

制作したコンテンツを表示したPepperが展示を案内

東浜小で出前授業

8月6日、石巻市立東浜小学校でPepperを使った出前授業を行った。授業を担当したのは、高橋智准教授と木村光平さん（院理工修1）。東浜小学校からは児童6人が参加した。

3、4年生はPepperに搭載された学習ドリルアプリを体験。5、6年生は好きな言葉や動きを組み合わせてPepperに命令を送るプログラミングに挑戦した。

参加した児童からは「Pepperの動く仕組みがわかった」「Pepperを動かすことができて楽しかった」などの感想が聞かれた。

和やかな雰囲気のなか、相互理解を深める学生たち

講義通して異文化知る

オンラインで国際体験研修

日本人学生と外国人留学生の交流を通して、それぞれの文化を学ぶ全学共通の「国際体験研修」が5月から開講されている。3年目の今年は、新型コロナウイルスの影響で、形式で開催。日本、ベトナム、中国の3カ国の学生が受講し、相互理解を深めている。

授業では毎回、学生が自国の文化や産業についてプレゼンテーションを行う。7月24日の授業では「自国の文学とサブカルチャー」をテーマに3人の学生が調査内容を発表した。

ベトナム北部地域出身のグエン・チョン・ハーさん（理工1）は、自国で行われている六つの祭りを紹介。それぞれの開催時期や特徴、意味などを解説した。佐藤勇貴さん（人間3・沖縄県ヒューマンキャンパス高）は、宮城県出身の漫画家・石ノ森章太郎を取り上げた。発表後の質疑応答では、受講生や担当教員から質問が相次ぎ、実りの多い授業となった。

学生たちは、水野純国際交流センター長（理工学部教授）や輪田直子人間学部教授、田村真介経営学部准教授、奈良英利理工学部准教授の指導を受けながら準備を進めている。調査や資料の作成を通じて自国への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

好スタート

南東北大学野球 秋季リーグ戦

南東北大学野球秋季リーグ戦が8月29日に開幕した。硬式野球部は4戦を終えて3勝1敗で3位と好スタート。優勝を目指し、熱い戦いを繰り広げている。

開幕カード（29、30日）の相手は福島大。初戦を0―1で落としたものの、2戦目は打線が爆発した。初回に4番・菅野雅也さん（経営2・宮城県仙台育英学園高）のセンター前ヒットで先制するとそこからチームは勢いづいた。五回に6得点を挙げるなど、10―0で六回コールド勝ちした。

続く2週目（9月5、6日）は日本大学工学部と対戦した。齋藤智哉さん（経営3・山形県米沢中央高）、渋谷祐太郎さん（経営2・宮城県築館高）の完封リレーで初戦を3―0で制すと、2戦目も7―3で勝利した。

酒井健志監督は「初戦は硬さも見られたが、その後は集中力を切らさず戦えている。全員野球で勝利を目指したい」と話した。

2人が1位

東北学生陸上選手権

第49回東北学生陸上競技選手権大会が8月8～10日、宮城県の仙台市陸上競技場で行われた。女子競走部の齋藤凛さん（経営2・宮城県聖和学園高）が5000㍍で、フォックス真島新菜さん（経営1・青森県八戸学院光星高）が1500㍍でともに1位となった。

齋藤さんは同種目で連覇を達成した。

9月28日（月）には、岩手県の北上総合運動公園陸上競技場で第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝）の東北地区代表選考会が行われる予定。部員たちは3年連続5回目の本選出場を目指し、トレーニングに励んでいる。

サイバーボランティア

鈴木さんに感謝状

宮城県警

「宮城県警察大学生サイバーボランティア」として活動する鈴木祥太さん（理工2・福島県葵高）が事件解決に貢献し、8月18日、宮城県警本部から感謝状が贈られた。

情報電子工学科で学ぶ鈴木さんは、「学んでいることを生かし、人の役に立つことがしたい」と1年次から同ボランティアに参加。インターネット上の違法情報や有害情報を監視するなど、サイバー空間の安全確保に取り組んできた。今回は、サイバーパトロール中に発見した有害情報をいち早く通報したことが、事件解決につながった。

鈴木さんは「自分の行動がきっかけで事件が解決したことはうれしく、一層のやりがいを感じている。アプリケーションやプログラミングを学んで、将来はソフトウエア開発に挑戦したいと考えている。このサイバーボランティアの活動で得た知識を活用し、夢の実現に向けて努力していきたい」と話した。

「事件が解決したことがうれしい」と話す鈴木さん

研究室探訪

消費者視点でAI技術を開発

経営学部経営学科　佐藤　平国助教
SATO TOSHIKUNI

AI（人工知能）技術の代表でもある機械学習の応用について研究しています。具体的には、機械学習による予測や判断の根拠を説明する際に役立つ手法の開発や、想定されるリスクや誤判断を回避するために機械学習を制御する方法の開発などに取り組んでいます。

AIには「最善の意思決定を自動で提供してくれるもの」というイメージや期待感がありますが、実践では十分な精度が得られないことも珍しくありません。また、政策の施行や治療法の選択といった場面では単に意思決定の結果だけでなく、その理由や根拠も示された方が納得度が高い。生活者・消費者の視点から安全性の高いAI技術の開発を目指す私の研究は、安心安全な超スマート社会（ソサエティ5・0）の実現につながっていくものと考えています。

データサイエンティストには、数学力、プログラミング力、ビジネス力などさまざまな技術が求められるようになりました。大学生活の時間には限りがあることを自覚し、興味のあることや頑張れることを見つけたら、積極的に行動を起こしてください。私のゼミでは、申し出のあった1年次生が既に活動に参加しており、後期の授業期間でも希望者を受け入れる予定です。多様な研究テーマに一緒に取り組みながら、皆さんの視野や可能性を広げる手助けができればと思っています。